

大越 雄太

～稲を繊維作物として最適化していくと何個か社会課題を解決できる～

○稲を繊維作物として最適化することで、環境負荷の少ない天然繊維や安定的な粗飼料生産ができ、コメ作りの課題として需要減少による収入の低下、耕作放棄地増加、補助金依存などの解決だけでなく繊維産業や畜産業の課題解決につなげる。

基本情報



- 事業実施地域：
福島県郡山市を中心に拡大、稲作が行われている地域であれば可能
- 経歴等：
・再生可能エネルギーのバイオマス活用関連の会社を経てイネの根の活用法を研究
- 主力商品・イベント：稲の根を利用した繊維
- 活用した支援施策：
・郡山市スモールスタート支援事業
・こおりやまSDGsアクセラレータープログラム
・(株)アドリブワークス社norosiスタートアップハブ
・東邦銀行とうほう創業支援塾

事業を始めたきっかけ

- 人口減少に伴うコメの需要減や耕作放棄地の発生等の米づくりの社会課題を解決する方法として、イネを飼料や繊維として利用する方法に着目。

取組の概要

- イネの葉の部分を利用する「いねのこfeed」について実証エリア調査中。
- イネの根の部分を利用する「いねのこfiber」について順次商品開発中。
- 「いねのこ」による粗飼料、繊維利用によって補助金依存から脱却。毎月収穫できるため安定した収入を実現。
- 国産いねのこの栽培によって繊維原料の輸入依存から脱却し国産繊維原料のサプライチェーンの再形成できる。

ビジネスモデル



いねのこfeedによる飼料としての利用（POCエリア調査中）



いねのこfiberとして順次商品化中

事業目標

- ・行政、繊維産業、畜産業等との連携。

求める支援、協業先等

- ・イネの繊維を利用した商品開発、販路拡大。
- ・行政や自治体、繊維産業、畜産業、農業機械や資材の開発企業、ICTやIoT産業、金融業等との幅広い連携。

ウェブサイト▶